



分子研を去るにあたり

全 炳俊

京都大学エネルギー理工学研究所量子放射エネルギー研究分野 助教
(前 極端紫外光研究施設電子ビーム制御研究部門 助教)

分子研での研究生生活を振り返って

ぜん・へいしゅん / 2004年京都大学工学部卒業、2009年京都大学エネルギー科学研究科博士課程修了、
博士(エネルギー) 同年分子研助教、2011年7月より現職

分子研に採用以前は、加速器の中でもリング型のUVSORとは少し異なる直線型の加速器を扱っており、また、採用関連の書類も締め切り間際に提出した事も有り、『やっぱり、採用されないかな……』と思いつつ、2008年12月の寒い風の強い日に行われた採用面接後、研究棟前の階段をトボトボと下りた事が今でも鮮明に思い出されます。

無事に採用されたらされたで、当初は『果たして私とほぼ同年齢の放射光リングUVSORにこれ以上、新しい課題があるのか?』、『採用されたのは良いが、自分が何かの役に立つ事ができるだろうか?』と不安を抱えておりましたが、UVSOR光源加速器グループの加藤先生・阿達先生・山崎さん・林さんのご指導・ご支援により、徐々にではありますが自分で仕事を見つける事ができるようになり、その仕事を通

してUVSORをより良いものにする事に微力ではありますが貢献できたのではないかと思います。

また、分子研採用以前は博士学生であり、純粋に加速器・自由電子レーザーの開発を行っていたのですが、分子研採用後は主に所内ユーザーの皆さんとではありますが交流を持ち、ユーザーの指摘により加速器は更により良いものになっていくのだという事を学ぶ事ができました。

現在は母校である京都大学に異動し、博士学生時代に開発していた自由電子レーザー装置のユーザー利用に向け、日々、不安定な加速器と格闘しながら、学生さん達の若さを吸い取りながら研究活動に励んでいます。UVSORのように加速器駆動光源をユーザーに『喜んで』使ってもらえるようなレベルまで洗練していくのは非常に難しく、道

は険しいですが、将来ユーザーの皆さんの喜ぶ顔を見られるよう、日々、汗を流しています。

一方では、分子研UVSORの共同研究者として、自由電子レーザー相互作用や電子ビームからのコヒーレント放射の研究を行う事を予定しております。ですので、稀に分子研に出没します。見かけた際にはお声掛け頂ければ幸いです。

最後になりましたが、前UVSOR施設長の小杉研究総主幹、現施設長の加藤先生、UVSORの木村先生、繁政先生、助教の皆様、技術職員の皆様、秘書の萩原さん、ユーザーの皆様には2年3ヶ月という短い期間でしたが、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。また、多岐に渡り今後ともお世話になります。どうぞよろしくお祈りします。